

再発恐怖ガイドラインの作成

研究分担者 明智龍男（所属 名古屋市立大学大学院医学研究科）

研究分担者 島津太一（所属 国立がん研究センター社会と健康研究センター）

研究要旨

がんサバイバーで最も頻度が高いアンメットニードである再発恐怖に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。そのため、Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、現在システマティックレビューを実施中である。

A. 研究目的

がんサバイバーで最も頻度が高いアンメットニードである再発恐怖に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B. 研究方法

Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとりすすめている。

統括委員会は、奥山（委員長）、藤森、内富、吉内で構成し、ガイドライン作成グループは、責任者明智の下、竹内恵美（国立がん研究センター）、樺野香苗（名古屋市立大学看護学部・大学院看護学研究科）により構成した。気持ちのつらさ（うつ・不安）の診療ガイドラインのグループと協働しながら作業を行う体制とした。

C. 研究結果

クリニカルクエスションとして、再発恐怖の心理的介入は有効か？、バックグラウンドクエスションとして、再発恐怖を有するがん患者に対して推奨される介入はなにか？と設定し、現在、系統的レビューを実施している。クリニカルクエスションについては、P：成人がん患者、I：再発恐怖の軽減を目的とした心理療法、C：通常ケア、O：

再発恐怖、病態悪化、コスト、脱落等と決定した。バックグラウンドクエスションにおける介入は、ガイドラインに取り組んでいる各班の介入、薬物療法（抗不安薬、抗うつ薬）、協働的ケア、早期緩和ケア、介護者支援、ピアサポートの検索式を使用している。

現在、一次スクリーニングを実施中である。

D. 考察

今後、がん患者の再発恐怖に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインが作成され、がん患者の生活の質の向上が期待される。また、より一層症状緩和を推進するうえで必要な研究が明らかになる。

E. 結論

がん患者の再発恐怖に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインが作成されることにより、がん患者の生活の質の向上が期待される。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。） なし